

日本の経験を生かして スポーツを通じた国際協力

体育・スポーツ分野で活動した JICA 海外協力隊など、
スポーツ分野の取り組みを紹介する写真展を開催



【写真： 競技の普及や指導に携わる JICA 海外協力隊員 】

JICA 海外協力隊の派遣は1965年に始まり、累計5000人がスポーツ分野で活動した。

JICA 中部が運営するなごや地球ひろばでは、写真展「SPORT FOR PEACE—スポーツの力が未来を照らす—」を開催いたします。是非ご来館いただき、ご取材・情報掲載のほどお願いいたします。

【取材可能期間： 開催期間中（2026/2/4～6/28）】

スポーツの力

人々に楽しさや熱狂、感動をもたらし、多くの人をひきつけるスポーツ。「する」だけでなく、「見る」「支える」など、多様な関わり方、楽しみ方ができることも魅力です。スポーツは、言語、文化、宗教など背景の異なる人々が、ボーダレスに一緒に楽しむことができます。またお互いへの理解を促し、多様な人々や地域をつなぐ力があります。そのため、平和な社会の実現につながる有効な手段であると考えられています。

またスポーツは、子どもから高齢者まで、そして障害のある人も、誰もが参加できるものです。SDGs で目指す、地球上の「誰一人取り残さない（No one will be left behind）」の実現にスポーツの力を役立てることができるとの期待が高まっています。

JICA は、1965 年から JICA 海外協力隊としてスポーツ隊員の派遣を続けるなど、誰もがスポーツを楽し

める環境づくりや、スポーツを通じた人材育成に取り組んでいます。

日本の経験を生かし、日常的に楽しめるものに

日本は、学校の体育科教育や運動会、課外活動を通じて、子どもたちにスポーツをする機会を広く平等に提供しています。また、ラジオ体操の普及や施設の整備によって大人がスポーツを楽しむ機会も創出し、健康づくりのほか、世代を超えた交流も生み出してきました。日本のこうした経験は、スポーツ分野の協力において大きな強みです。スポーツが心身の健康を育み、人々の交流を促進することに加え、国際平和にも貢献することを明言した日本の「スポーツ基本法」も踏まえ、スポーツに関連したさまざまな開発に貢献し、日本の国際的地位の向上にもつなげていきます。

本写真展では、JICA がラオスで実施する障害者スポーツの普及事業やスタジアムの改築事業、世界各国で活動する JICA 海外協力隊の活動の様子、JICA が中部地域の団体と実施する取り組みなど、44点の写真をご紹介します。スポーツが世界にもたらす力をご覧ください。



【ラオスで車いすバスケットボールの指導をする JICA 海外協力隊員】

SDGs 達成に向けた取り組みを知る

施設内では、SDGsと国際協力を学ぶ 基本展「SDGs—未来につながる17の約束—」を同時開催します。基本展では、世界の「今」とSDGsを達成するための世界やJICAの取り組みをご紹介します。展示を見て、さわって、体験して、SDGs達成に向けて私たち一人ひとりにできることを考えることができます。

【展示概要】

展示期間：2026年2月4日（水）～2026年6月28日（日） 入場無料 開館時間：10:00～18:00

休館日：月曜日（月曜日が祝日の場合は開館、翌平日が休館）、年末年始、その他天候等の理由により臨時休館する場合があります。最新の情報はウェブサイトをご確認ください。

施設ウェブサイト：<https://www.jica.go.jp/nagoya-hiroba/index.html>

※4月4日（土）には、写真展連動イベントとしてトークイベントを行います。イベントや、学校等による展示見学と合わせた取材のご希望があればお知らせください。講師・学校等と調整を試みます。

【本件に関する問い合わせ先】

JICA 中部 市民参加協力課 影山・後藤

TEL：052-533-0220（対応可能な時間：月～金 9時30分～17時30分）

e-mail：cbictpp@jica.go.jp